

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0874200256		
法人名	社会福祉法人 石下福祉会		
事業所名	グループホーム さくら館	ユニット名	(2)
所在地	茨城県常総市馬場2245		
自己評価作成日	令和 元年 7月 日	評価結果市町村受理日	令和 年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 いばらき社会福祉サポート		
所在地	水戸市大工町1-2-3 トモスみとビル4階		
訪問調査日	令和 年 月 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

食は、命を支えるエネルギー源であり、「生きることは食べること」です。おいしく食べて明るく元気に過ごしていただくことを継続していくこと、それは介護予防の一步だと思えます。また、1日3度の食事は生活基本であり食生活のきちんとしている家庭は生活もきちんとしています。入居者と職員と一緒に準備、食事、片付けをし、共に支え合い、助け合い、労わり合いながら暮らしていきたいと考えています。また、物忘れは多いとしても「感情は豊かで、敏感で繊細なお年寄を、家族と共に支える生活を大切にしていきたいと思えます。」

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「人の命は地球より重い」の理念を基に、職員会議等で管理者及び職員は常時確認している。ミーティングやカンファレンス時に全職員の共通の理解の下利用者をサポートしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。買い物や外出時に地域の人との交流を通じ、顔なじみの関係を作っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流スペースでボランティアの慰問会、納涼祭などの開催を地域の代表方に事前に連絡し、地域の方々に参加していただき触れ合うことによって認知症の理解を深め支援していただける関係を築いている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月ごとに一回開催、家族代表者、地域代表者、行政の方に参加していただき、施設内の事やそれぞれの方々の疑問や希望等を聴く機会として有効に活用させていただいている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議等で事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えたり市町村担当者に情報をいただいたりしながら、協力関係を築くように取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及びすべての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また全職員が常に目に付く所に拘束について掲示している		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、職員は外部研修および内部研修に参加し学習の機会を持っている。全職員が高齢者虐待防止について学び、虐待が見過ごされる事のないよう注意を払い、防止に努めている。たとえば全職員の目の付く所に虐待について掲示している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員で地域権利擁護事業や成年後見制度について研修し、必要な入居者にはそれらを活用出来るように支援している。又、研修時の資料は、職員がいつでも活用できる場所に置いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者の権利・義務が契約時に明確に示され、入居者とその家族に十分説明し同意を得た上で、サイン・捺印をもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情等に関する相談窓口や第三者の苦情相談窓口を設けている。又、面会時や行事の時などさりげなく家族等の意見や不満・苦情を聞き、運営に反映させている。外部評価の結果をいつでも閲覧出来るように玄関に配置している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は、日頃から話しやすい雰囲気作りや努力、職員の意見や提案を聞く機会を設け反映させている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者や職員各々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがい等各自が向上心を持って働けるよう、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者や職員の研修を積極的に進めている。月1回の法人内で研修する機会、外部研修に参加させるなど積極的に働きながらスキルアップできる環境作りを努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は管理者や職員が特養さくら館との交流や合同研修会等で他の同業者と交流する機会を持ち、勉強会、相互訪問等の活動を通じて情報を交換し、サービスの質の向上させていく取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時からグループホームの生活に慣れるまで、本人が困っている事や不安に感じる事などに傾聴しながら本人と職員の信頼関係を築いていくようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用を開始する段階で、家族が困っている事、不安に思っている事、要望などに常に耳を傾けながら、信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等との話し合いの中で「その時」まず必要な支援を見極め他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、本人の豊かな人生経験から学ぶなど労わり合い支え合う関係を記事居ている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、これからの生活を前向きにとらえて、本人と共に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の本人、家族などの聞き取りや日々の生活の中での会話や関わりなどを把握し、家族や知人の面会時に新たな情報を得ている。年賀状などを出す際のお手伝いをするなど関係が途切れる事のないよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、1人ひとりが孤立する事無く、楽しく関わり合いお互いに支え合えながら生活出来るよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設や自宅に戻る場合、サービス利用(契約)が終了してもこれまでの関係を大切に、必要に応じて本人、家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや意向をケース記録や業務日誌に残し、職員間で確認している。思いを表出するのが難しい利用者の場合も、表情や仕草、生活歴などから希望に添えるような取り組みを検討している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の情報や日頃の様子を話し合いながら、1人一人の生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経緯等の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人一人の一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。たとえば、夜間の様子・起床時の様子・バイタルチェック等を含め、朝の申し送り等で職員職員で入居者1人一人の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らす為に、事前に本人や家族の意向を確認している。また往診時に医師から医療面での指示やアドバイスを得て計画書を作成している。計画書は本人の状態に応じて随時見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果・気づきや工夫を個別記録(ケース記録)に記入し、職員間で情報を共有しながら、職員会議等で介護計画の見直しをして、ケアの実践に活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化(外出)にも取り組んでいる	本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化(外出)にも取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域が開催する催しへの参加や、地域の保育園との交流を楽しんだり、消防署との合同開催する消防訓練に参加する等、豊かで安全な暮らしを支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にかかりつけ医への受診が可能な事や協力医療機関の医師による訪問診療等の受診も出来る事を伝えている。本人、家族の希望をうかがった上でかかりつけ医に受診する場合は医師宛の手紙などで情報を伝えている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の特養の看護職員に気軽に相談できる関係を構築しているため、日常の健康相談や医療行為の支援を得られる事ができる。そのため個々の利用者が適切に受診や看護を受けられるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際、安心して治療できるように、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。併設の特養と共に週2回、回診日があり、受診出来る体制づくりをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合や看取りに関する事業所の指針を利用者や家族に説明し、同意書をいただいている。ターミナルケアマニュアルを作成し、年一回内部研修を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備えて、マニュアルをもとに、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けるように努力している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を月1回の避難訓練で色々な想定で実施している。訓練後は反省点や課題について話し合っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	管理者や職員は、1人一人の人格を尊重し配慮しながら支援している。利用者の肖像権を含めた個人情報を使用する場合の同意書も契約時にいただいている。また個人情報の管理は鍵をかけてきちんと管理されている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。日頃から、信頼関係に努め、体調や生活リズムの安定を確保しながら、思いや希望を表しやすい環境にしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそってその人らしい暮らしが出来るように支援している	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、1人一人のペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそってその人らしい暮らしが出来るように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、その方のこだわりを尊重している(カットやカラー、衣類の組み合わせ等)		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食意が楽しみなものになるよう、同法人の管理栄養士と相談し、利用者の嗜好に配慮した献立をたてている。また1人一人の好みや力を活かしながら、利用者の状態にあった家事活動の参加を促している		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、1人一人の状態や習慣に応じた支援をしている。また、医師からの指示に沿った適切な食事を提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアに力を入れ、食前の口腔ケア体操や、1人一人の口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人一人の排泄パターンを把握し、排泄の自立に向けた支援をしている。日中は全介助の入居者もトイレでの排泄を促し、夜間もポータブルトイレを使用するなどして極力オムツを使わず生活出来るよう支援している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解し、便通をよくする飲食物の工夫や運動への働きかけを行い、個々に応じた予防に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は基本週に2回で午前中に行っているが、利用者の希望に沿って行えるようにしている。また季節感を楽しむためにゆず湯や菖蒲湯なども行っている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人一人の生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。認知症や生活不活発病が進行しない程度に本人が自由な生活時間を過ごせるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人一人が使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。また服薬の支援については、医師の指示通りの服薬を支援し、症状の変化の確認に努めている。毎週薬剤師と薬や本人の状態について話し合いを行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者1人一人の力量に合わせて食事づくりの手伝いや配膳、後片付け、散歩など利用者が張り合いや喜びが得られるよう、役割づくりをしている。またレクリエーションや書道、行事等により外出し気分転換の支援を行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	1人一人のその日の希望に沿って、戸外に出掛けられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族等と協力しながら出掛けられるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は本人がお金を持つことの大切さを理解しており、1人一人の希望や力に応じて、お金を所持したり使えるよう支援している。外出時は金銭間違いがないよう必要に応じた見守りなどの支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は窓が大きく明るい。窓からは外の景色が良く見え季節の変化も感じられる。玄関には長椅子が設置され座ったまま靴を履きかえられる。行事等の写真も飾られ、手軽に家族も閲覧できるようにしている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	館内外にはソファやベンチがあり、自由に座って話をしたり、家庭菜園の野菜の収穫が出来る等楽しく過ごしていただけるような工夫をしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、馴染みの物や、家族の写真や思い出の品物などを飾り、居心地良く過ごせる工夫している。また転倒等の危険がないように環境整備に心掛けている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内はバリアフリーであり、廊下は車いすがすれ違える広さを確保している。また高齢者が使いやすい位置に手すり、コンセント等が取り付けられている。自動火災通報装置設備のほかスプリンクラーが設置され安全面にも注意している		